美郷町議会だより
第11号
平成19年7月

議会だより みさと

美郷町議会 第2回定例会報告 ……2
一般質問 5人が登壇 ……3
追跡 どうなったの？あの質問… ……7
委員会報告 教育民生常任委員会 ……8
住民の声 ……8

発行／美郷町議会 〒699-4621島根県邑智郡美郷町 TEL 0855-75-1211 FAX 0855-75-0135 編集／議会広報編集特別委員会

美郷町議会 第2回定例会報告

議長
吉田義雄

平成19年第2回定例会は6月12日に招集され、会期を4日間の6月15日までと決め条例案6件、予算案1件、一般事件案3件、報告案件1件と最終日に追加議案2件が提案され慎重審議しました。

6月14日には一般質問が行われ連合自治会長会の皆様方をはじめとする沢山の傍聴を頂く中、5人の議員が提言を交えながら町行政について質し6月15日閉会しました。

可決された議案

条例

条例案は上位法の改正に伴い改正するものが3件、公の施設の指定管理に関するもの他3件で原案のとおり可決しました。

提案された条例は次のとおり。

◎美郷町委員会の委員等並びに非常勤の職員に対する報酬及び費用弁償支給条例の一部改正
- 公職選挙法の改正に伴い投開票関係の報酬等を改正

◎美郷町過疎地域における固定資産税の課税免除に関する条例の一部改正
- 租税特別措置法の改正に伴う条文の整理

◎美郷町基幹集落センター条例の制定
- 指定管理のための条例整備（美郷町基幹集落センター）

◎美郷町生活改善センター条例の一部改正
- 施設の譲渡に伴う条例の整備（上川戸生活改善センター）

◎美郷町観光船条例の制定
- 指定管理のための条例整備（観光船第1大和丸）

◎美郷町消防団員等公務災害補償条例の一部改正
- 国、政令の一部改正に伴う改正

予算

◎平成19年度一般会計補正予算（第1号）
- 補正内容は4月の人事異動に伴う人件費の組み替えと災害復旧費補助率確定によるものが主な要因で6千404万9千円を追加し総額63億1千404万9千円となりました。

一般事件案

◎専決処分の承認を求める件
- 美郷町税条例の一部改正、国民健康保険税条例の一部改正、平成18年度一般会計補正予算（第6号）の3件について承認を求められ全会一致で承認しました。

追加議案

◎公の施設の指定管理者の指定
- 美郷町基幹集落センター
  管理者を「都賀西連合自治会」へ指定
- 観光船第1大和丸
  管理者を「（株）グリーンロードだいわ」へ指定

陳情審査報告

教育民生常任委員会に付託され継続審議されていました陳情について審査報告がされ全会一致で委員長報告のとおり決しました。

陳情要旨	審査結果
福祉医療費助成事業の拡充を求めることについて	不採択

組合議会議員の補充選挙

邑智郡の3町及び江津市と構成しております各組合議会の規約改正に伴う各組合議会議員1名の補充選挙が行われ推薦で次のとおり選挙しました。

組合議会名	議員名
邑智郡総合事務組合議会	井下慈海
公立邑智病院組合議会	西嶋二郎
江津邑智消防組合議会	吉田義雄

5人登壇 一般質問

町長
沖野　健

若者定住住宅建設事業の入居に関して

入居要件を踏まえ対応したい

原　修 議員

問　この事業は、町民の期待も大きく、入居枠について様々な推測論が飛び交っている。混乱を防ぐためにも次のことについて伺う。

① 入居者の公募・入居要件審査会の設置等の時期は。

② 町内、町外の戸数割合は。

③ 特例的入居枠一戸を設定出来ないか。

例えば町外在住の結婚適齢期の若者で、美郷町で結婚し、永住希望者に対し配慮は出来ないか。

沖野町長

答　定住対策の推進は、最重要課題として取り組んでいる。

本年度から、3年間継続事業として、若者定住住宅に取り組む。

本年は都賀本郷地域に5戸建設し、別府地域に5区画の造成を予定している。

① 入居者の公募は、チラシ約2万部を作り、新聞折り込み・手渡しでの配布・おもだった施設への配布等を行い、8月末を〆切にする。

審査会は〆切後早い段階で実施したい。

② 町外、町内の方でも可能だが、審査会での結果により検討したい。

③ 応募状況を現段階では予想し難い、今のところ特別に枠を設けることは考えていない。

原則として、40歳以下の夫婦で小学生以下の子供がいる、町外・町内の家庭が対象と言うことで考えているので、その中で対応したい。

山手ニュータウン

「ちょっと困ったな支援事業」でサービスを

社会福祉協議会と協議・検討したい

問　高齢者向けのサービスの充実は大きな課題となってきている。

一人暮らしの高齢者・障害者の世帯を対象として、日常生活で「ちょっと困ったな」という程度のことをお手伝いする支援事業の構築を提案する。

本町でもシルバー事業を立ち上げ、支援への取り組みは評価する。この事業で対応しかねる困り事に対して、次に上げる事項を参考のうえ見解を伺う。

○事業実施主体は、町社会福祉協議会（仮定）。

○事業内容は、専門技術を必要とせず1時間位で出来て継続性のないもの。身体介護、家事援助は対象外。

具体例（電球等の交換、ブレーカー落ちの復旧、ネジの緩み、蛇口パッキンの緩み、洗面所等排水溝の詰まり、代筆、代読、軽い家具の移動等）

○利用料は、一回200円、部品等の購入は自己負担。

○活動協力員は、活動可能な時間帯、活動内容を登録。

○活動費は、一つの活動につき500円（利用料200円プラス社協負担300円程度）。

沖野町長

答　別組織を構築した活動は、シルバー人材センターの事業との整合性からも図るべきではない。

シルバー人材センターの事業の一環として、社会福祉協議会と、対象者や事業内容を整理し協議・検討したい。

安心で安全な暮らしのために

対象地域との最終的な詰めを

簇根正一 議員

問 昨年の豪雨災害から一年を迎えようとしている。幸い国の激甚災害の指定を受け、概ね復旧に目途がつき安心している。しかし民家の裏山が崩れたところ等について災害の対象とならず、自力で土砂の除去、又そのままシートなど掛けたまま放置され、不安な日々を送っておられる方もある。近隣の町ではこういった民家を対象に個人負担を受けながら復旧をされていると聞くが、本町においてはこの制度の対応と周知をどのようにされているか。

沖野町長

答 家屋の危険な箇所についても、災害発生後直ちに県の担当課長、県のOBの方に調査をしていただいた。林地崩壊防止事業で取組める箇所もあるが、地元負担金15％が必要であり18年度では1箇所のみの対応にとどまった。

三島建設課長

答 民家の裏山となると、砂防、急傾斜、治山、地滑り等の事業であるが、それぞれ採択要件があり、それを全て満たさないと採択されない。又地権者の了解や予算の確保が必要である。町としては危険な場所や、採択可能な所から要望している。指摘の林地崩壊事業について可能な場所は他に5箇所あったが、この事業は崩れた箇所のみの復旧であることと、地元負担金のこと等で希望されていない。

農地、水、環境向上対策事業への取組み強化を

集落の理解を求めるよう努めたい

問 農地、水、環境向上対策事業は、地域ぐるみで農地、農業用水路等の資源の長寿命化や、農村環境を美しく守る地域共同の取組みを支援する事業である。この事業の対象地域となると、水田面積10アールに対し4400円が交付され、環境保全型農業の実践地域には追加助成として稲作10アール当り6600円の交付があると聞く。このことを踏まえ次の二点を問う。

① 本町の保全活動の申請状況。

② 環境保全型実践地域とは。

沖野町長

答 本年3月から集落から協定書の提出を受け、内容を精査し、正式に代表者の印鑑を押印の上、提出いただいた。交付金の交付は6月下旬頃の予定である。

① 本事業の申請状況は、町全体で協定集落数36、協定面積、水田333ha、畑27ha、合計で360haとなり、交付金額は15000万円となる見通しである。

② 環境保全型農業実践地域とは、環境負荷の低減に資する取組み及び化学肥料、化学合成農薬の使用低減等の二つの要件を満たすことが必要であり、現在のところ比之宮、高畑の2集落で取り組まれる予定である。

主要地方道、邑南飯南線の早期完成を

早期完成に向け引続き努力する

問 主要地方道、邑南飯南線、村之郷工区はルート及び工法の変更、又予算等の関係で工事が進まない。地域住民は多年に亘りこの線の完成を待ち望んでいる。町長もこの区間の早期完成に向けて強く要望をすると述べておられるが、平成19年度の工事概要、予算額、工法、完成時期について伺う。

県道邑南飯南線 村之郷工区

竹林の活用を問う

今後の成り行きを見守りたい

景山良材　議員

問　孟宗竹の繁茂は年々拡大し、竹林の手入れが出来ない状況下にある。

竹を資源として有効利用が出来ないかと、中山間地域研究センターでは、伐採した竹をパウダー化し、米糠、くず米、大豆を混ぜてペレットにし牛の飼料に、又バーク堆肥やマルチビニールの代用にと幅広い活用が期待されている。

①　本町の竹林面積と植林地や耕地へのはびこり状況は。

②　地域資源として竹の活用を民間会社や森林組合への働きかけは。

答　沖野町長

①　本町の竹林面積は、256ha。植林地、耕地へのはびこり状況は把握していない。年平均5％程度拡大すると言われており、タケノコを切っても毎年手入れが必要であり、景観への悪影響も出て来ている。

②　タケノコの加工品、カキ筏や竹炭等へごく僅か利用されている。斐伊川林業活性化センターと中山間地域研究センターが実証実験をスタートさせ、雑草抑止効果や、堆肥、家畜の飼料等への活用が期待されている。民間会社等へ有効活用については特に働きかけはしていない。今後の成り行きを見守って行きたい。

◀ はびこる竹林

加工竹製品 ▼

総合防災訓練の実施状況と参加住民の反応は

防災意識の向上に役立つ訓練になった

品川光博　議員

問　5月27日に実施された美郷町総合防災訓練の実施状況と参加住民の反応について、美郷町第一次長期総合計画、更には昨年の集中豪雨災害を踏まえ、あらゆる災害を想定して町民の生命の安全を守るため、消防団など関係機関と連携し、町内8箇所において総合防災訓練が実施された。次の点について町長の所見を伺う。

①　訓練対象地域の住民の参加状況について。

②　住民の訓練参加に際しての意見や反応は。

③　避難指定場所への防災

無線設置の検討と、テレビが受像出来る装置を。

④ 訓練時において、住民への防災知識の周知や伝達事項に必要な機器類の整備点検を。

⑤ 今後の防災訓練の実施計画は。

沖野町長

答 ① 町内8箇所で住民382名、消防団211名、建設業協会17名、消防組合5名、役場35名、国、県の職員13名、合計663名の参加、又自治会数では15自治会。対象世帯349世帯で、その内258世帯が参加し世帯の参加率は74%であった。

② 初めての試みであり、避難所での進行など不慣れな所もあったが概ね整然と行われ、防災意識の向上に役立つ訓練になったと聞いている。又、集会所のトイレの問題、防災用品の配置、防災無線の不備などが挙げられている。

③ 集会所には基本的に防災無線の子機が設置してあるが、体育館、潮交流館など子機がない箇所も一部あるので早急に調査をしたい。

④ 訓練に必要な放送機材などの整備点検も進めて行かなくてはならないが、全ての場所に整備するのは財源的にも困難であり、携帯用のハンドマイクなどを活用して行く方法も検討したい。

⑤ 他の自治会からも実施の要望を伺っている。消防団と協議しながら、2年か3年に一度開催出来るよう調整したい。

防災訓練（浜原地区住民）

三江線の利用促進について

最大限の協力と働きかけを進める

佐竹一夫 議員

問 昨年の災害により不通となっていたJR三江線が、16日全線運転再開されることとなり、沿線住民の喜びは大きい。復旧にあたっては、関係市町で構成する三江線利用促進期成同盟会等で要望された賜と察している。今後の課題である利用促進策を伺う。

沖野町長

答 一時は存続も懸念されるような大きな被害を受けたが、JR及び島根県の英断、関係機関の御尽力により運転再開となった。今後は利用促進が大きな課題と認識している。計画されている利用策として、都賀公民館のお座敷列車の実施、補助制度を利用した都賀行公民館のイベント、職員組合、鉄道研究会のイベント利用等が計画されており、町としても、最大限の協力と働きかけを進めて参りたい。

追跡 どうなったの？あの質問…

本会議で行った一般質問で改善や検討を求めています。
指摘した事項に、町当局がどう取り組んでいるかを追跡調査しました。

問… へき地保育所統合案の基本的な考えは。

答… 当分の間存続する。

○小松地、内田両へき地保育所を統合し、旧内田保育所を一部改修し、４月１日より君谷保育所として新たに開所。元気に子供達は通所しています。
又、町営保育所の乙原保育所については民営化され、４月１日より邑智会により運営されています。

○へき地保育所の新設はむずかしい。

○延長保育、休日保育等のサービスの充実と保育行政について今後も引き続いて検討して行きたい。

委員会報告

「八名塩道（やなしおみち）」を視察して

教育民生常任委員会

石見銀山世界遺産登録延期が勧告された5月、「八名塩道」を見学に訪れる人が多くあるとのことで、銀山街道の保存と地域振興に繋げたい想いで、委員会は5月30日現地視察を行いました。

16世紀前半から産出された、石見銀山の銀輸送は当初、海路が使われたが、江戸初期からは陸路に変わり、大森から「八名塩道」を通り、貨幣の原料となる金銀を、牛馬300頭、人足約400人によって幕府の金蔵である大阪や京都に運ばれた。

一方銀輸送以外に魚や塩の物資を運ぶ道でもあり、「塩の道」として山の稜線に沿って約7㎞、小原（現在の粕渕）に向かう最短距離として、銀山街道が利用されたと言われております。途中中国自然遊歩道と併用されているが、踏査結果を委員会要望として列記します。

① 中国自然歩道や八名塩道に配置される案内板に、老朽化したものがあり判読し難いものがある。

② 銀山街道を護る会の皆さんによって、道の整備がされ通りやすくなっているも、車両の往来によるタイヤ跡が長い区間に亘ってあり、銀山街道として不自然である。

③ 古代中国から伝わったとされる、街道に粘土と真砂土と塩水を交互に積み重ねた「版築」と呼ばれる工法の案内看板の設置。

④ 隣接市町村との銀の道にまつわる町の歴史、文化、産業に関する連携の強化。

⑤ 人目を避ける程度のトイレの設置。

住民の声

漆谷利美

最近のテレビや新聞をみると、親が子供を殺し、子供が親を平気で殺す。又、ニートとか言って仕事もしないで親の脛をかじりっぱなしの若者が居るかと思えば、フリーターとか言う仕事を転々とし同じ職場が長続きしない若者が居る。

世の中は乱れている。こんな事実をみる度にこれからはどうなるのだろうかと心配するのは私だけではあるまい。では何故こんな時代になったのだろうか。そう考える時、私達の年代でよく話題になることがある。

それは昭和30年代の高度成長期に親達は子供のことはそっちのけで一生懸命に働いた。若者は皆、都会へ働きに出るようになり、女性も働くようになった。世界に追いつけ追い越せで、日本は確かに世界有数の経済大国になり、国民の生活も豊かになった。これだけ早く復興させた先人の努力に対しては、頭の下がる思いはある。

しかし、その時のつけが今になって日本を蝕んでいるのではあるまいか、ということである。

子供のしつけは3才から9才までが大事だと言われている。善悪の判断、人としての思いやりとか、そういうしつけがなされていない。そうして育った子供がやがて親になり子供を育てる。昔は2世代、3世代と一緒に住んでいたから、祖父母達が子育てのサポートも出来た。だが今は、核家族で解らないままに、手さぐりで子育てをするわけである。

0才児から保育園にあずけて働きに出る、そんな家庭が増えている。

現在、町や社協などで子育て支援の対策がなされてはいるが、地域全体でサポートして行かなくてはならないと私は考える。

少子高齢化の問題も深刻である。子供は学校を卒業すると都会に出て行き高齢者だけが残る。あと10年もすれば集落が崩壊するところも出るだろう。

ではどうすれば良いか、私は行政、町会議員も含めて、住民一人ひとりの意識改革が必要だと考えている。自治会にしても同様である。全員で集まる時が葬儀の時だけというのではどうにもならない。せめて月に一度は一同に会して、地域の将来について真剣に考えるべきである。

編集後記

10億円かかりました。

昨年の災害で大きな被害を受け、一時は存続があやぶまれたJR三江線が6月16日全線運転再開となりましたが、この復旧に、JR西日本と島根県が負担された金額です。

今後はいかに利用増をはかっていくかということですが、当面は一時的でもイベント等で協力していかなければならないかと思う。

この沿線を旅した人は、春の桜、秋の紅葉の美しさを言っておられます。普段我々が見なれた風景も、他所の人から見ればすばらしいと思われることがたくさんあります。又、我が町には、納涼船もあり、温泉もあり、アユもあります。三江線とつなげた企画もぜひ考えてほしいと思います。

（佐竹　記）